allcinema

レッドチェリー（1995）

紅櫻桃
RED CHERRY

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 中国
色彩 Color
時間 122分
初公開日 1995/11/11
公開情報 大映

【解説】
ナチス侵略の恐怖に晒された旧ソ連の悲劇を、一組の中国人少年少女の目を通じて描いたこの力作は、モスクワのゴーリキ青少年映画製作所の協力を得て全編ロシア・ロケで撮られた、掛け値なしに国際級の作品。後段、主人公の少女が、その名も“フォン・ディートリッヒ”という、本業は医師の将軍の召使いになってからの退廃ムードは、生半可の耽美派ではシャッポを脱ぐド迫力で、絞られる涙に鼻水も混じるというもの。４０年モスクワ。雪に閉ざされたイワノフ国際学校に革命さなかの中国より共産党員の子弟二名、１３歳の少女チュチュと１２歳の少年ルオが留学した。教師や生徒は暖かく彼らを迎え、ドイツ人の母と中国人の父を持つカールは、まだ見ぬ郷土愛から特に親身に接してくれた。次第に新しい生活にも慣れ、二人はロシア語の会話試験でみなの前で自分史を語るが、チュチュはレオの真似をして平凡な家庭の話をし、担任のヴェラ先生に咎められる。彼女の革命家の父は公衆の面前で刑死した。その酷たらしい有様を涙ながらに告白するチュチュ。彼女が嘘の想い出を語ろうとするのも当然だった。翌４１年。チュチュやカールたちはベラルーシに夏のキャンプに出かけ、折しも侵攻してきた独軍の捕虜となる。一旦は逃れた彼らも、再び捕われてチュチュはやがて義足の将軍の恐ろしい慰み者となる。きめ細やかな肌を絶賛された彼女は、将軍の“芸術”の刺青の画布となって、鉤十字をその背に刻まれてしまうのだ。一方、モスクワに残ったルオは浮浪児となり、親切な区長の世話で死亡通知の配達をし、孤児の少女ナディアの“お父さん”になってやる（チュチュの悲惨な運命とまた違った哀しみが、この牧歌的な家族ごっこに篭る）のだが……。アジアが生んだ一大反ナチ・ソープオペラとして必見の作品。チュチュの被った悪夢が実話だったとは全く、事実は小説より奇なり、だ。

【クレジット】
監督 イエ・イン
脚本 チアン・チータオ
撮影 チャン・リー　Zhang Li
音楽 ヤン・リーチン
出演 クオ・カーユイ
シュイ・シャオリー
ユーリア・タルホフ
ウィスチラフ・ブタンク
リアンナ・イリニツカヤ

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.